

第4章 本市の目指すべき姿

第1節 基本的な考え方

温室効果ガス排出量の長期大幅削減のためには、現在の社会経済の在り方を見直し、我が国のエネルギー政策を踏まえながら、人や自然にやさしいエネルギーへシフトしつつ、環境に配慮したライフスタイルやビジネススタイルへの転換を図るとともに、エネルギー消費の少ない集約型都市、すなわち低炭素都市を形成することが必要です。その際、地球温暖化対策については、環境と経済との好循環の創出ということを念頭に置き、経済成長にも資するものとする必要があります。

加えて、生活の快適さや都市の利便性の向上等の福祉の増進を図るとともに、人口減少社会や超高齢社会*という社会経済環境の変化にも適切に対応できるようなものとする必要があります。

あわせて、地球温暖化の問題は、市域に限らず広域的な取組も重要であることに加え、被爆を経験した都市として核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を訴え続け、世界的にも知名度が高い本市には、平和への取組と同様に、人類共通の課題である地球温暖化問題の解決に向けて貢献することが求められていることから、本市の取組の成果や先進都市の事例等を、近隣市町をはじめ国内外の都市と共有し、連携・協力することによって相乗効果を生み出し、市域を越えたより広範囲なエリアでの低炭素化を図ることも重要です。

また、深刻化する地球温暖化の進行を踏まえ、地球温暖化による気候変動の影響を最小化し、又は、回避するとともに、たとえ災害等が生じても都市の機能を維持しながら、しなやかに再生できる強靱性を備えた都市とする必要もあります。

そして何より、本市の特性である、水と緑に象徴される本市の豊かな自然環境を次世代に引き継ぐとともに、その自然環境と共生していくという視点も重要です。

こうした視点を踏まえ、「カーボンマイナス70」の策定趣旨や対策の方向性を基本としつつ、本市の目指すべき姿を設定します。

第2節 目指すべき姿

地球温暖化対策の推進において本市の目指すべき姿は、次のとおりとします。

【目指すべき姿】

「人が生き生きと暮らし、活力にあふれる
強靱で持続可能な低炭素都市 “ひろしま”」

平成62年度(2050年度)の姿 人が生き生きと暮らし、活力にあふれる強靱で持続可能な低炭素都市“ひろしま”

- 活力と賑わいに満ちたまちには、ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(以下「ZEH*」という。)やネット・ゼロ・エネルギー・ビル(以下「ZEB*」という。)等の再生可能エネルギー*や革新的な省エネ技術を備えた住宅やビルが立ち並び、公共交通を中心としたネットワークの構築や都市機能の集約、スマートコミュニティの導入等も進み、エネルギー消費の少ない集約型都市(=低炭素都市)が概成している。そこを走る自動車は次世代自動車*に変わり、蓄電池の代わりとなる燃料電池自動車も普及し始めている。
- 特に、国内外の多くの人を訪れる都心部では、先端技術の粋を集め、「太陽光発電」で水を分解して「水素」エネルギーを創るなど水素と水の循環による「カーボンフリー*」が実現している。
- 市民には「環境に配慮する」という考えと行動が定着し、「資源の循環と低炭素化」を基本とした社会経済活動が進み、生活の快適さや都市の利便性を享受するとともに、豊かな自然と共生した暮らしや営み^{おう}を謳歌している。
- 広島広域都市圏*全体では、地域特性に応じた自立分散型の再生可能エネルギー等が大規模に導入され、これを圏域内で融通し合うエネルギーの地域循環も生まれている。
- さらには、国内外の都市との連携・協力が進み、世界の多くの都市で低炭素都市づくりが加速している。
- 一方、地球温暖化による気候変動の影響を最小化するとともに、たとえ災害等が生じて都市の機能を維持しながら、しなやかに再生できる都市としての強靱性を備えた、豊かな自然環境と共生するレジリエント*なまちづくりも進んでいる。

